

第2回 勉強会

筑西市の地域医療の 課題について考えよう ～医療をより身近に～

筑西市役所 地域医療推進課
主任 小室 菜々恵

1

○第1回勉強会の振り返り

- 人口は年々減っていく
- 高齢化率は年々上がっていく

医療・介護等を必要とする人が増える
→より多くの医療介護資源が必要となる



- 筑西市を取り巻く医療資源は全国平均より少ない
- 医療従事者の高齢化

全国よりも少ない人数で医療を提供している
→限られた医療資源を最大限有効に活用

現状

- 1日あたり37件の救急車出動件数
(うち、60%が高齢者・41%が軽症患者)
- 最初にかかる医療機関は医院・クリニックが6割
その他病院は約3割
(第8次保健医療計画より)

- 医療機関を役割分け
- 症状等に合わせて連携と取りながら医療を提供



2

○それぞれの立場で考えられる課題

【市民】

- 健康づくり等のイベントに人が集まらない
- 地域医療の現状を知らない人が多い
- 救急車・医療機関等の適切な利用についての住民の理解不足
- かかりつけ医がない
- 正確な情報をどこで得られるか分からない



「現在の筑西市の医療において
どのような課題が考えられるか」

【医療】

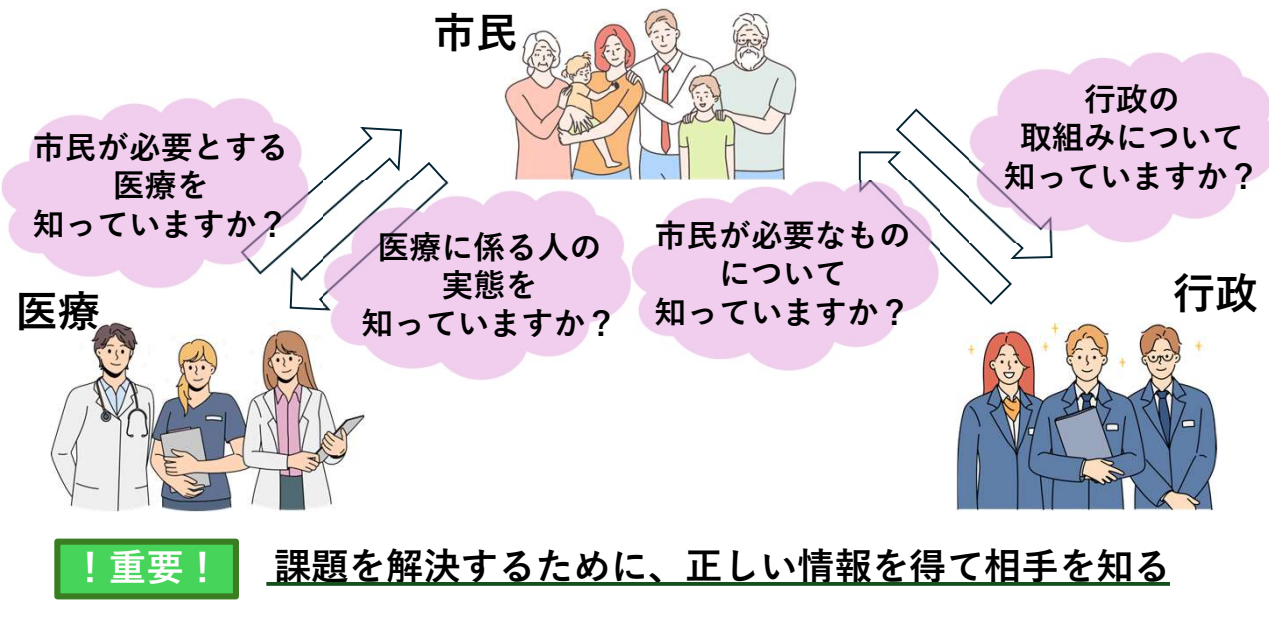
- 医療・介護従事者の減少
- 夕方から夜の救急医療
- 病院から退院後に身体を回復できる医療機関の不足

【行政】

- 住民の健康づくりのための働きかけ
- 医療従事者減少問題への対策
- 地域医療に関する普及啓発
- 在宅医療の今後の展開

3

○課題を解決するために考えてほしいこと



4

○グループワーク

○内容 「どんな情報を広げていくことによって、
地域医療を守ることができるか」

- ・自分が生活していて知りたい情報
- ・こんな情報が知りたい
- ・課題を解決するためには、こんな情報が必要

○時間 45分 ※グループ数は5グループ

- ①自己紹介
- ②発表者等の決定
- ③どんな情報を広げていきたいか自身で考える
- ④グループで3つほど決定する



○発表 10分

5

○今後の勉強会スケジュール

○勉強会について
今年度：5回開催

○ちくせい地域医療シンポジウム開催
2月頃に開催予定

○第3回勉強会について
「情報を広げるためにどのような取組みが
自分たちにはできるか」



6

○自分事として捉える

例

救急車の適正利用についての住民の理解不足

